練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第10回）「キャリア教育の推進」部会　要点録

開催日時		平成22年５月６日(木)　午後３時13分～午後５時30分
会　　場		練馬区役所本庁舎12階　教育委員会室
出席者	委　員	廣嶋憲一郎、石井友行、小野雅保、世古徳浩、安井実、望月徳生、根本裕美、飯塚剛、野田恵威子（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	芝田智昭　統括指導主事、鈴木裕行　指導主事

１　挨拶

事務局

先生方、お集まりいただきありがとうございます。４月 23 日に続き２回目です。新たに新しい先生方にご協力いただき、いい資料ができればと考えています。

アドバイザー

ペーパーを見ると、10月29日の原稿提出締め切りまでのスケジュールができているようなので、これに従って、来年開設される小中一貫校の方に使ってもらえるものを、みんなでがんばって作りたいと思う。

部長

委員校長先生に貴重な資料を作っていただいた。まずはお礼を申し上げる。

去年は内容について廣嶋先生からご指摘、ご指導いただき、深く広くいろいろ考えるのに時間もかかったかと思うが、今回は具体から始まる。ただ先ほどいただいた過去の冊子などを見ると、できあがるまでは真剣にがんばるのだけれど、できたものが練馬区内でどう活用されているかというリサーチも必要だと思う。

作るだけが目的でないのは当然で、短いスパンなら５年、あるいは 10 年で、この事例や学習指導案、カリキュラムがどう使われていくのか、また改編して内容も変わっていきながらも使われていくのかといったリサーチが必要である。

小中一貫校開設のときは、私も去年 50 周年の周年行事をやったのだが、何か式があると盛り上がるが、本当はある程度盛り上がったそこからがスタートである。そのときに先生方にお力添えいただきながらやったものがどう位置付いていくか、そういう中期的な視点で作成しないと、これだけの精力をかけていただいた先生方に報えない。そこは常に考えていかなければと思っている。

２　協議

事務局

委員校長先生には年間計画をご用意いただいた。それから事務局からはプロットをお出しした。まず、プロットにある実態把握については、「小中一貫教育校に関するアンケート」の冊子がお手元にあるかと思うが、これはいわゆる練馬区の小中一貫教育校にかかわる意識を集計し

たものである。大きな柱立ての１番目に関わる資料である。こちらでご用意した２は実践事例については、どんな進め方で、どんな対象で役割分担をどうするか。そして３番目が次回までの作業課題、４番目が今後の課題を想定している。委員校長先生からは年間の会議の日程を出していただいており、進め方のロードマップのご提案がある。進め方としては最終的に 10 月 29 日がゴールに決まっているので、それまでどんな順序で進めていくのか、委員校長先生のご提案をまず全員が共通理解したうえで今日何するかというように進めていきたい。

委員

前回いただいた資料の中に、今年度の課題は学習指導案とワークシートの作成とあり、それを作るために何をしていったらいいかを一応、月別、回数別に入れてみた。

事務局に伺いたいのだが、例えば前回いただいた資料の中に「1 学習期　2 重視する指導事項のまとめ　3 中間報告書記載の指導プラン例は中間報告を基に事務局が作成」とあるが、これは 70 ページに含まれているのか、これ以外で 70 ページなのかが分からない。

事務局

基本的に 70 に含む形で考えている。

委員

部会ごとに学習期があり、重視する指導事項のまとめがあり、中間報告書記載の指導プラン例がある。その１、２、３がそれぞれ部会ごとにあるのか。

事務局

現段階ではそう考えている。

委員

具体的に事務局が何ページぐらいで想定しているのか分からなかったので、一応「〇ページ」と書いた。それがある程度分かってくると、昨年度の報告書にある実践事例の中から選ぶ、あるいはまた別の事例があれば検討の対象にしたいと思う。

次に学習指導案とワークシートのスタイルである。前回いただいた資料に学習指導案のモデルが出されたが、それに基づいてやっていくのか、あるいはキャリア部会として若干修正を加えたほうがよいのか、その辺を早めに確定したいと思う。できれば今日中にでもある程度学習指導案のモデルのラフスケッチを決め、６月８日までにどなたかに１本モデルを持ってきてもらい、それを基に今後の実践事例、学習指導案の作り方を検討して決め、７月１日には事例ごとに役割を分担したい。

7 月 13 日には実際に作業すると分からないところが出てくると思うので、出し合いながら検討する。7 月 28 日は大泉学園桜小・中学校の見学なので、それも合わせて最終的な役割分担を明確にして夏季休業に入る。9 月には各自の原稿を持ち寄って検討し、10 月はさらに修正原稿を持ち寄って検討、10 月 19 日に最終チェックという運びを考えている。

部長

事務局に伺いたいのですが、例えば浅く広く細分化して１事例１ページか２ページにすれば多く事例ができると思う。しかし、ある程度のかたまりを作るのであれば４ページ見開きとかが考えられる。どの程度を考えているのか。

事務局

単元で組むものについては単元の指導計画がまずいるだろう。道徳みたいに本時だけのものであれば本時だけでもいけるだろう。また、学習指導案だけでワークシートがなければ先生たちは使う気にならないので、そのままコピーして使えるものがあったほうがよい。そうすると結局、１事例最低４ページ程度は必要になるかと話をしている。

ですから中間報告の１事例１ページではせっかく学習指導案とワークシート集を作るのに全く足りず、４ページ、あるいは偶数で増えるとしたら、６ページ、８ページになる。事例はこの前６事例出しているので、最低６事例と考えている。

委員

中間報告だから６事例は生かしたほうがいいと思う。

事務局

昨年度のお話の中でも、基本的には実際にやったものを事例として挙げ、他にもこういうものがあるよというのをちりばめ、それを次の年の学習指導案、ワークシート集に入れようという話は出ていた。

委員

ワークシート集はCD-ROMに落とすといっていたが、事例集にはワークシートはいらないのか。

事務局

すべてのワークシートは掲載できないが、CD-ROMに掲載している一部は入れ込まないと、先生たちは使ってくれないし興味をもってくれないと思う。

今までの話だと、これまでに取り上げた６事例は膨らませて掲載し、さらに今年度、掲載可能なものをまた見付けて作成していく、そういう方向でよいのではないか。

部長

前回もらった資料のプロットの中に各部会の構成の枠があり、「９年間学習することで、部会が目指す子供像を実現することが期待できる教材とする」と書かれているが、キャリア教育に目指す子供像があり、他の部会でもいろいろな子供像が出ている。４部会それぞれが子供像を出しているが、１人の子供は１人であって、全体像のところで４部会から照らしたときにちゃんとそれが正対していればよいが、そうなっていないように思われる。

アドバイザー

そうですね。そこはバラバラですね。

部長

分科会としてはそれぞれ山が四つできていてそれなりに完成版になっているので、それを事務局がこの辺は大事なのだと統合する必要がある。並列的だが、Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期で目指す子供像をキャリア教育としても書いたが、他の部会から見たときにも分かるように書いておく。そういうオーダーが出てくればこの冊子自体が重層的になり、バラバラの部会のものをくっつけたものではなくなると思う。前回、吉村教育指導課長が言われた「練馬の子供たちをこれからどうするのか」ということが、目指す子供像と直結する。もっと言ってしまえば、中間報告書の各４部会に出ている目指す子供像のもっと前の、要するに小中一貫教育校の資料作成のときに目指す子供像があったと思う。

アドバイザー

最初、区として言っていたのは知・徳・体。いま部長先生の話を聞いていてキャリア部会はやっかいだなと思ったのは、他の３つの部会は知・徳・体でつながる。ただキャリアは知・徳・体の何なのか。

部長

豊かな人間性といってもスパッといいきれない。生き方か。

アドバイザー

結局、取り上げる教科が特別活動とか総合的な学習の時間とか生活科が多い。特別活動は何か。知か、徳か。

委員

特別活動は知もあり、もちろん徳もあり、トータルである。

アドバイザー

知・徳・体、全部ある。たぶんトータルである。そうすると他の部会はあまり難しくないが、キャリア部会が一番難しくなる。かといって目指す子供像をもう一回考え直すのもどうか。

これが知・徳・体のベースとなっていると考えるか、あるいは発展型になっているか。心の部会や体力の部会の発展型、あるいはそれを総合したものをキャリア部会の子供像だと考えるのか。あとで構造図を作ればいいと思う。子供像を総合したものが要るが、できると思う。例えば心の部会は 20 ページのアイウエオで、規範意識・生命尊重・自尊感情・思いやりの心・社会連帯と自覚の五つを載せている。表現力の部会も、トータルとして書いている部分もあるが、ちゃんと 10 ページに載っている。だからそれぞれ子供像を意識はしている。でもそれを集約するとたぶん、知・徳・体である。だから我々のものはそれを発展させたものとしてとらえる。それぞれの知・徳・体はエリアがはっきりしている。表現力は道徳や体育あるいは言語活動を中心に考えているから、やるのはほとんど教科指導である。国語が中心で、我々の場合

はいわゆる教科でない部分をかぶせていく流れである。

アドバイザー
　領域の役割は教科では指導しきれないものを総合的に見ていく部分なので、ベースというよりもたぶん発展形である。構造図を作るとしたら、キャリア部会がその上に乗った発展形になると思う。でもそれは責任者である五十嵐統括指導主事に任せるしかない。

部長
　知・徳・体プラスキャリア教育として、そこでつながっていけば、子供の全体像は分かりやすくなる。あえて知・徳・体、発展形、実践系のキャリア教育を入れたところに、小中一貫教育の特色があるといってもおかしくない。

アドバイザー
　それをどう表現するか。あともう一つは、特別支援教育が入っているのがここだけ。

部長
　他は入っていないのか。

アドバイザー
　他は道徳とそれ以外の教科指導のベースなので、特に支援教育を入れているのはここだけである。だから横断的というか総合的というか、そういう流れがこのキャリア部会にはある。新設される小中一貫校は特別支援教育についてどういう体制なのか。

事務局
　大泉学園桜小・中学校には設置されておらず、今後もする予定はない。ただ、大泉学園桜小・中学校は地理的に大泉特別支援学校と道路１本隔てた近隣にあるので、以前から交流はしている。

アドバイザー
　学校の中には設置しないけれど近隣の学校との交流はするという内容になるのか。

事務局
　そうですね、これまでの活動を継続する形になる。

アドバイザー
　そうすると、本当はそういうのが色濃く出る事例がほしい。もちろん今までの事例は事例でよいが、その辺のもあるとよい。委員先生が前に提案した中によその学校との交流があったように思う。

委員

特別支援学級の連合ではやっているが、あとは校内の通常の学級と特別支援学級の交流がある。

事務局

交流及び共同学習ですよね。

委員

大泉学園桜小学校は結構やっている。年間計画に位置付けて、向こうから来て、こちらは休み時間に遊びに行く。道路も交通量の全くない袋小路なので横断も安全である。

アドバイザー

それを第Ⅰ期だけでなく第Ⅲ期、中学校のレベルぐらいまで継続してもらえばよい。Ⅰ期は問題ないので、Ⅱ期やⅢ期まで継続してやってもらえるようなメッセージを何か送れればよい。

委員

あとは文化発表を合同でやっているが、それに特別支援学校の子供を招待して参加してもらっている。

部長

例えばリトルティーチャーの場合、通常の学級に中学生が行ってリトルティーチャーをやっているが、必ずしも通常の学級でなくてもよい。職場体験もそう。子供たちが特別支援学校に職場体験に行ってケアしたりしても、何ら問題ない。

リトルティーチャーのように先生の補助役で教えたりすることは今わりとやりやすくなっているが、特別支援学校だろうが専門学校だろうがいろいろな学びの場に、キャリア教育の「共に生きる」という視野で子供たちが入るケースがあっても不思議ではない。

事務局

いま、対象とする事例の一つとして、例えば特別支援学校との交流とか、リトルティーチャーが近隣の小中学校だけに限らないという話があった。あと、事例として、豊玉南小学校も豊玉中学校とやりますよね。

アドバイザー

内容的にはリトルティーチャーか。

委員

まだそこまで話は進んでいないが、まずは６年生が中学校で１日過ごしてみようと。それに慣れてきたら中学校の先生に英語など教えてもらったり、リトルティーチャーのような形で入ってもらったりすることも考えられる。また、専門的に中学校の先生から教えてもらうこともできるかなと。

アドバイザー

高校との連携はいくつか実績を作っているか。

高校の先生が来て、実際に社会科とか数学科の授業を行った。

委員

これから学習指導案やワークシートを作っていくが、一般的に学習指導案は児童の実態に応じた手立てを書いていく。この前の吉村教育指導課長の話に「練馬区の」というのがあったので、参考にできるところは拾っていき、考えていったほうがよいかと思う。例えば「アンケート調査報告書」の 70 ページを見ると、小学生の中学校進学への不安について、「勉強が難しくなる」の次に「友達が変わる」が出ている。

これは練馬区でなくてもそうであろうが、例えば実践事例の中にこういうデータがあるからこんなふうに指導の工夫をしていくと説明すると、ある程度実態を生かした学習指導案になると思う。せっかくこれだけのエネルギーを使って作ったアンケートなので、活用できるところは活用して学習指導案に生かしていけばよいと思う。

委員

自分たちの部会に関して言えば、最後は委員先生が作ってくれたＡ３判の実践プラン例にすべて落としていかなければいけないわけですね。そうすると情報活用能力とか人間関係形成能力とかに全部結び付かなければいけない。

委員

そうですね、少なくとも６事例を押さえるのだから。６事例が完全に押さえられていて、プラスさっき例に出た大泉学園桜小学校と特別支援学校の交流だとか、豊玉南小学校の小中学校の交流だとか、いくつか見えてきそうな気がする。

部長

確認になるが、これは練馬区の先生全員に使ってもらえるように作ったもので、小中一貫校に勤務している先生だけのテキストではない。だから差別化というか、小中一貫校のメリットを強烈に出した事例ばかりにすると、うちは小中一貫校じゃないから関係ないとなる。このテキスト自体は、一貫校でなくてもそれなりのメリットはある。でも一貫校だと２倍、３倍のメリットがあるという、プラスの二乗のようなイメージ、そう考えざるを得ない。

委員

そうすると、ポイントになるのは６年生と中学１年生の区切りのⅡ期に入れている例になる。それから、４年生である程度完成するⅠ期の完成型。中学３年生で完成している例はいっぱいあるが、４年生までで何か一つ第Ⅰ期の区切りになるような例とか、６年生から中学１年生にスムーズに入っていき、中学１年生である程度自分たちの意識の中では完成し、Ⅱ期である程度形が作られて、スムーズにⅢ期に行けるような例がほしい。

事務局

やはりⅡ期がポイントで、いま大泉学園桜小・中学校の部活動体験を事例３で入れているが、さらに上石神井小学校と上石神井中学校のリトルティーチャーとか、豊玉南小学校と豊玉中学校の１日体験を入れてはどうか。

部長

それとドッキングしてちょっと新しさを出した、リトルティーチャーの拡大版みたいなものを考えたい。上石神井小学校でなければできないリトルティーチャーはだんだん先細りで、近隣の他の小学校、北石神井小小学校とか石神井小学校、あるいは石神井台小学校でもできるようなリトルティーチャーを模索していかないと、独自なケースだろうと言われてしまう。やはり突破口は職場体験なのであろう。職場体験の応用発展型。例えば先生になりたければ隣の石神井台小学校への職場体験に行って、２日なり３日なり、先生の後について助手をやってみる。リトルティーチャーはたかだか45分、50分の世界だが、１日、２日、先生にくっついてできるのは、また違った価値付けができるかと思う。職場体験の１日先生体験はやっているところが結構あるが、位置付けがあまりされていない。34校で一気にそれができれば、職場体験は中学校がやっているから、近隣の小学校に５人、10人お願いすれば一つの形になる。

アドバイザー

部活動体験をやるときは大体、小学生が中学生のところに行きますよね。中学生は小学生が入ってきてやりにくいことはないのか。

委員

スペースを取られるとやりにくい。

アドバイザー

数は多くなるし、手加減しないといけない。

部長

時期の問題もある。例えば、３年が引退して１、２年しかいない10月など、来年絶対部員としてゲットしようという熱い志を持っているから、ものすごく面倒見はよい。

アドバイザー

そうだと思う。部活動にゲットしようというところがポイントで、中学校のメリットである。多分、小学校の先生より中学校の先生のほうの負担が大きい。中学校が嫌がらずに「よし、来いよ」となるには、何かメリットがないそうはならない。小学校のメリットは何か。早めにそういう経験することによって馴染むというメリットはあるが。

部長

学校選択制をとっているから、A中学がいいかB中学がいいか、その部活動が頭で考えている部活動とどう違うのか、同じなのか、安心感を求めるためには来る。複数行きたいという子

も結構いる。

委員

やはり安心感が一番だと思う。大人でも同じだと思うが、全く違った環境に身をおかなければいけない不安感が小学校６年生にとってはすごく大きい。それがたった１日でも１時間でも、そういう環境で先輩と一緒にやれ、理解することで不安は減っていくので、そこは小学校にとって一番大きなメリットである。

アドバイザー

学習指導案は教師に対するメッセージだから、これから学習指導案を作っていくときには双方のメリットが読み取れる作り方が大事。教師に対してこういう指導するといいですよというには、双方に何かメリットがあるというメッセージを送らないと駄目かなと思う。特に小学校の先生にメリットを感じてほしい。

子供たちはメリットを感じても、先生が感じているかどうか。どちらかというと先生は８割方、中学校が主役になる。部活動にしてもリトルティーチャーにしても事前の指導や実際にしていくのは中学校の先生で、小学校の先生は安全管理やスムーズな進行の立場である。多分、中学校のほうが大変だろうと思う。でも、中学校をもうちょっとよくするためには、子供たちに事前にそれなりの経験をさせるために中学校に来てもらいたい思いがあるので、そういう観点から中学の先生はメリットを感じている気がする。だから先ほど言った、大変だけどでもやるしかないなという感覚だと思う。

小学校の先生は、中学校と比べてそんなに大変ではないから、逆にメリットがもう一つ分からない。子供を通して見れば分かると思うのだが、中にはめんどくさいことをやらなければいけないなと思っている人も正直いる。その辺にどういうメッセージの送り方をするか。

ここの第Ⅰ期の事例は全部、小学校の事例である。これは要するに生活科とか道徳でこう指導するとキャリア教育のベースであり、連携とか一貫というレベルの意識がこの指導によって生まれるかというと、多分生まれない。

このⅠ期、４年生までのものは、一般的な指導計画を作るだけである。Ⅰ期の事例はその中にキャリア教育の視点を意識してもらうためのコメントを何か入れる程度しかできないと思う。やはりⅡ期・Ⅲ期の事例、特にⅡ期の事例である。

部長

Ⅱ期の言葉として「夢から希望」とある。夢は実現しそうもないファンタジーの世界で、希望は年上のお兄さんとか具体的な憧れの人物と、実像がだんだん近づいてくる。４、５、６年生は中学校を見ることによって安心感を持ちつつあこがれ、いろいろな意味で意欲が高まってくるだろうと思う。そういう事例があれば小中一貫に結びつくのかなと思う。

アドバイザー

あまり作ってしまうとよくないが、例えばⅠ期の道徳にバドミントンクラブがある。これがどういう事例なのかはまだ細かく紹介をしてもらっていないので分からないが、道徳としては若干邪道かもしれないが、このときにバドミントンクラブの中学生の姿が見えるとか、あるい

は中学生の姿が見えるような資料がそこで使われるとか。あるいは二分の一成人式などの場合なら、過去に 10 歳を経験した中学生がその後夢を抱いて中学校に来てどうだったか、ちょっと話をしてもらう。そういうものが入ってくるとまた連携とか一貫の意味合いが出てくるかもしれない。全部は難しいと思うが、これから指導計画を整理するときにはそういうことも必要かもしれない。

部長

例えば「ようこそ先輩」の中学生版、「拝啓、中学生」でも「ようこそ中学生」でもよいが、４、５年後の先輩たちはこういうところでこういうことをしているというのがコラム的に入っている。そして、こういうつながりの中でこの授業が生きてくるとかが垣間見えてくると、学習指導案にしてもワークシートにしてもおもしろいのかなと思う。

リトルティーチャーをやったりすると、よく上石神井小学校の全児童 600 人ぐらいが「何々のお兄ちゃん、お姉ちゃん、どうもありがとう」と短冊に書いて 600 枚ぐらい持ってくる。それで職員室の廊下に張っておくと、女の子など結構見る。何かそういう気持ちがはっきり分かるようなメッセージとかお便りなどがあるとよい。

アドバイザー

学習指導案を作るとき、今まで事例で紹介したものはある程度分かるが、他はまだ我々には具体的に見えてきていないものがある。何をどういうふうに書くかの問題もあるが、小学校の先生も中学校の先生もメリットを感じられるようなメッセージがどこかで送れないか。例えば備考欄にこんなことを書くとか。

それから、それぞれが交流できるような教材、実際には小学生が中学校に行くのは難しいと思うが、中学生が小学校に来て何か話をする場面が設定できれば、そういうのも入れる。

あと去年出した事例は、事例としてはよいが、事例として完結しているので同じスタイルでは出せない。特に、去年、私は子供の変容を入れたほうがよいと言い、皆さんがんばって子供の姿を入れてくれたが、これが邪魔になるかもしれない。つまり、欲しいのは子供の変容ではなく、どう指導するか、ワークシートなどはそういう意味合いでもある。

委員

代わりに相互にとってのメリットの項目を入れるとか。

事務局

極端ないい方をすると、ある面、机上の空論的な部分もかなりある。実際に小中一貫の実践があるわけではないので、ここで検討して作り上げた学習指導案という意味では、まだ誰も実践していない。

アドバイザー

子供がこうなることが期待されるというのは必要だが、こうなったというのは要らない。

事務局

小学校、中学校相互の教員のメリットを考えたときに、学習活動で児童・生徒がお互いに交流したり、乗り入れたりしたときには、双方が学習活動になるので、双方で教育課程上の位置付けがはっきりしていて、なおかつ双方で学習指導案ができあがっていることが必要になるかと思う。そうすると、事例を挙げた時に、報告書に載せるか載せないかは別にして、小学校と中学校それぞれ１本ずつ学習指導案が出てくることもありえる。

アドバイザー

小学校の総合的な学習の時間としてのリトルティーチャーと、中学校の総合的な学習の時間としてのリトルティーチャーの両方が必要である。

部長

リトルティーチャーは国語の先生がゲストティーチャーとして中学生を招聘しているから、あくまで授業を構成している人は教員である。だから国語でも図工でも音楽でも、教科として成り立つ。ただ、中学校のほうは総合的な学習の時間の中で、自分なりに課題を見付けて、児童とどう関わるかを実体験としてやるという、総合的な学習の時間のねらいの中でやるので、ピタッとは合わない。

事務局

そうすると小学校では国語の学習指導案、中学校ではその授業を行う教科等の学習指導案と、両方で学習指導案が立てられる前提である。そうすると報告書の形は別にして、ここでの検討の仕方としては、例えば小中学校で交流があった場合には、それぞれこういう授業として位置付けられるのだということがあったうえで事例を出す。あるいは学習指導案の提案になってくる。

アドバイザー

交流がある場面はリトルティーチャー以外に何があるか。

事務局

同時に行われる学習活動、例えば牧場体験学習と、中学校の働く意義と意味などの職場体験の事例とは種類が違う感じがする。小中学校が同時に学習活動をする場面と系統的に流れで積み上げていく学習活動は、ちょっと整理したほうがよいと思う。どちらにしても小中学校それぞれで学習指導案が立てられることがあって教育課程だと言える。

アドバイザー

両方が活動する場面は部活動ぐらいか。

部長

小学生が１日体験、１日入学みたいに部活動体験に来るのは、何で来ているのか。総合的な学習の時間か、特別活動か。

委員

学校によって違うかもしれないが、多分特別活動。クラブ活動の一つだと思う。

部長

授業に一緒に参加して体験しているのは。

委員

特別活動の概念の中に進路指導があるので、特別活動としてやっていると思う。

アドバイザー

中学校ってどんなところというのは、中学生がどう対応するかによって、両方かかわるかもしれない。

部長

中学生が来て自分の体験を語ったり、質問コーナーか何かをやる。授業中に子供たちが来るのだから進路指導か。

委員

小学校側でいえば学級活動になるし、中学校側からすると総合的な学習の時間になるか。

事務局

中学１年生のオリエンテーションの生徒会活動の紹介に、もし小学生が来たとしたら、学級活動、児童会活動、生徒会活動という組み合わせで、両方成立するのか。

委員

去年、この部会は就労を目指し、Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期でそれぞれどんなことをやったらよいかに視点を置いて冊子を作った気がするが、今年度は小学校、中学校の一貫制で大事なところを補おうとする方向性になっているがそれでよいのか。

アドバイザー

他の方がどう考えているか分からないが、去年やったのがベースでよいと思う。キャリア教育と限定されているから、望ましい勤労観・職業観をはぐくむための材料を小中一貫校の中でより色濃く指導してもらいたいというメッセージをまず送る。ただ、実際に授業を展開していくときには、指導する先生方は我々の作る学習指導案を基にして授業する。その中で小学校の先生と中学校の先生がこれをやることで、小学生にもいいことがあるよ、中学生にもいいことがあるよということが理解できるような作り方ができないかが重要である。

具体的には１時間の学習指導案にするものもあるし、単元で作るものも出てくるかもしれない。道徳などは１時間でよいが、単元で作らなければならないものもある。総合的な楽手の時間で扱うものなどはある程度、単元の流れが要ると思う。そのときに、特に第Ⅱ期辺りの事例

は、小中学生それぞれ交流することによってどういうメリットがあるか、メッセージとして送れる作り方はできないのかという意味である。

委員

Ⅰ期は難しい。先ほどちょっとこじつけて、例えばこれとこれは中学生が来て話ができると言ったが、どう考えても「お・あ・し・す」の話などはごく一般的な学級活動である。ただ、こういうことがキャリア教育のベースだという意味合いでこれを出している。「がっこうだいすき」などもそうだと思う。

小中一貫校なので、学校探検は中学校まで行くかもしれない。小学校の生活科で大体１年生に入ってすぐやる単元である。小学校を全部回って６年生の部屋に行ったり、専科の部屋に行ったりして、自分たちのイメージとずいぶん違うなとびっくりすることも結構ある。小中一貫校だとさらに中学生の教室まで行って様子を見てくることもできると思う。「がっこうだいすき」はそういうかかわりができる。

委員

先ほど部長先生がおっしゃったが、何が何でも小中一貫校の宣伝にするのではなく、あくまでもキャリア教育の中で小中一貫の特色が出せるところは押さえればよいのではないか。

部長

Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ全部やる時間はなかなかないから、Ⅱ期に軸足を置く感じか。

アドバイザー

１事例何ページぐらいにするのか分からないが、70 ページだとどのぐらい取り出せるか。

委員

中間報告の 32、33 ページに書かれている本部会の検討の視点、（２）①体験活動を積極的に取り入れた指導、②子供の具体的な成長モデルを想像できる指導、③自己有用感を実感できる指導、ここに戻って事例を二つぐらいずつ、①で二つ、②で二つ、③で二つ、３期ぐらいに分かれた事例を意図的に作ったほうが、中間報告の延長になる気がする。

もちろん重視する指導項目に関しては、委員先生が作ってくれた表に右左にきちんと並んで出ている。６事例にこの辺を少し意識的に入れて整理していったほうが、中間報告の内容も生きるし、表にも書ける。

アドバイザー

それにプラスして、可能であれば交流場面やメリットを出せないか。

委員

②の子供の具体的な成長モデルを想像できる指導には「縦割り」というキーワードが結構出ている。

アドバイザー
日常的な授業の中では難しい。遠足とか文化発表会とか、学校行事的なものはできるのか。

委員
ただ、Ⅱ期は意外と地域に一緒に出ていける集団のような気がする。５年生、６年生、中学１年生は気兼ねなく地域に出て行って、何かできる可能性のある年代。

部長
地域のお祭りを一緒にやるとか、いろいろできる。

委員
実践事例ばかり追いかけているから見えてこないが、何かそういった事例を作れないか。

部長
高齢者の施設への慰問とかやっているところはないですよね。５年生、６年生、中学１年生、中学２年生とか。

委員
小学６年生の総合的な学習の時間に幼稚園や老人ホームなどに行くのは、前任校ではやっていた。

部長
青少年地区委員会とかがある。ジュニアリーダーとかシニアとか。あれは地域の小中学校が一緒だから、中学生のお兄ちゃん、お姉ちゃんと弟がいたりする。それを学校教育の教育課程に位置付けてやる意義、もしそれを学校に取り入れたときにすごくよい力になるのであれば、取り込むこともできる。

事務局
よく中学生が企画したものに小学生が参加するのがある。

アドバイザー
そうするとⅡ期の事例をもうちょっと再検討する。全部は取り上げられないので、その中で何個ぐらいになるか。70 ページの中にはワークシートとか資料も含まれるか。

事務局
はい。

アドバイザー
１時間ですむものと単元でやるものとはちょっと違う。

委員
長い流れの中でやるのであれば６ページで、単発ならせいぜい４ページ。

アドバイザー
道徳などなら４ページでも大丈夫か。

部長
ワークシートを入れて４ページぐらいが標準としてちょうどよいのではないか。

委員
10 事例も挙げたらもう十分ではないか。40 ページでは足りないか。

アドバイザー
十分でしょう。そんなに書くメンバーがいっぱいいるわけではないから。

委員
事務局で何ページぐらい使うのか。それも先ほど話題になったが。

事務局
部会として 70。

部長
70 分の 30 ぐらい使うか。

アドバイザー
要するに理屈の部分。今までやってきたのがベースになると思う。６事例の扱いをどうするか。

部長
これと別にまた事例を 10 考えるのは結構大変。

アドバイザー
6 事例を手直しするか。　ワークシートを付けたり、子供の反応は除いて展開の部分をもうちょっと詳しくするとか。

委員
単元の指導計画とかをプラスするとすれば、４ページになるか。

部長
「この町大好き」は 20 時間扱いだから、ワークシートが２枚、３枚入る。凝縮してこのペ

ージにしているけれど、これだけでも６はいくのではと思う。

委員
　とりあえずいま何ページと決める必要はないかと思う。具体的にどれを入れるかは、次回以降の話になるが、もし私の計画でいくと何か一つモデルを見てみんなでこうしたほうがいい、この項目を入れたほうがいい、これは削ったほうがいいところをもうちょっと揉んで、それに沿ってみんなが作ってくるような段取りでできればと思う。

アドバイザー
　一応４ページを基本にして、先生方が作ってみてとても４ページでは足りないとなれば、ものによっては６ページになることもあるかもしれない。資料、ワークシートを含めて４ページとすると、大体どんな構成か。見開き２ページで構成して、ワークシートと資料で２ページぐらいか。

部長
　中学校の場合、これなど進路ノートみたいな感じですよね。

アドバイザー
　よさそうなのを皆さんにコピーするか。

部長
　やはりコメントがうまい。「このような学習場面で使える」という見出しがあったり、ちょっと見てやってみようと思わせるようなキーワードを入れている。やはり売り物ですから、指導のポイントとかねらいはきちんとと書いてある。小学校は難しい。キャリア教育の事例はやはりそんなに入っていない。中学校は職業課程ではないが、進路ノートみたいなのが昔からあった。ノート自体も売っている。

アドバイザー
　委員先生は「がっこうだいすき」のところを書かれるかもしれないが、小中一貫校を想定したときに、メリットを計画の中に出せないかと先ほど話をした。例えば一般の学校だと、学校探検をやると大体小学校の教室の範囲で終わってしまい、来年できる一貫校だと１年生が中学校の部屋も見られる。そういう提案を指導計画に入れられないか。

委員
　今スタートカリキュラムで主事さんのお仕事とか給食室、いろいろな人のお仕事を見せてもらっている。

アドバイザー
　中学校の先生の仕事とか中学校の生徒の勉強している様子、あるいはいろいろな活動をしている様子まで探検するような展開案が作れないかなと。

委員

スタートカリキュラムの中で、専科の先生に授業をやっていただいているので、中学の先生のところに行って外国語活動を教えてもらうとか、机上のプランでもよいか。

アドバイザー

もちろん机上のプランで、子供の姿は要らないだろうという話になっている。

委員

変容も要らない。

部長

これは見開きになっていて、右側に子供たちが書けるノートのようなものが入っている。

アドバイザー

１ページはねらいと指導計画、２ページ目の右側がどこかを取り上げた展開案、３ページ４ページが資料ないしワークシート、その程度の共通理解でよいか。

委員

次回までに委員先生にラフスケッチでいいので１事例をお願いする。

委員

それをみんなで話し合いながら基本的なラインを作っていき、それを基に役割分担して事例を作っていきたいので、ワークシートも含めて４ページぐらいで書いてもらいたい。

アドバイザー

指導計画までが左の１ページで、それに小学校バージョンから一貫校ならではのところに広げる展開を入れて大体片面が終わるぐらいか。２ページ目には特に中学校とかかわる場面、中学校の探検に行く場面の展開案を、完成版でなく先生のイメージで書く。例えばこんな流れがおもしろそうだなというのをちょっと作ってもらう。そうすると、３ページ、４ページはその手がかりになるワークシートとか資料、校舎の配置図などを出すか、あるいはワークシートでもいいかもしれない。

委員

あともう一つはメリット。例えば、先ほどの学校探検の例では、小学校側にとっては学校探検のフィールドが広がる面でメリットが大きい。では、中学からみるとどういうメリットがあるか。２年生がやってきていろいろお兄さんに質問したり、そういうところも一つ視点として出したらどうかという話が出ていた。

アドバイザー
　アンケート結果を見ると、先生たちが小中一貫教育のメリットを感じきれていないのではないか。それで、そのメリットをどこかでメッセージとして送れないか。それを学習指導案のどこに書くか、備考欄に書くか、あるいは項を改めてこの学習のメリットのような活字で埋めるか。

委員
　ちょっとコラムみたいに四角囲いに入れてもよい。

委員
　中学のメリットがよく分かっていない。

アドバイザー
　あとで一緒に考えるので、例えばこんな枠でこんなことがと箇条書きでも何でもいい。

委員
　とにかく次回それをみんなで検討しながらフォーマットを作りたい。

委員
　簡単なものでよければ作る。いま伺っていて、最初の学校探検のところがよいのか、それとも町探検のほうがいいのか。

アドバイザー
　町探検だと中学生とかかわる場面は出てくるか。

委員
　町探検に行くとよく「中学生が来ましたよ」とか「来週は中学生が来るんですよ」と同じお店で言われる。

委員
　中学生が行っている職場を見に行く設定にしてしまってもよいか。

委員
　その後、小学生と中学生がお店について語り合う場面があるとよい。

アドバイザー
　一貫校を考えたら学校を取り上げたほうがよいが、その実践は一貫校しかできないかもしれない。連携校まで広げていくには、よほど近いところに位置していないと厳しい。隣の中学校を訪ねてみようとかでないと難しいかもしれない。ニーズとしてはどちらか。

委員
学校探検のバージョンで。

委員
委員先生にたたき台を作ってもらい、６月８日に項目はどうしようかとか、あわせてどの事例をという見当をつけたほうがよいかと思う。たたき台ができると４ページで足りるのか足りないのかが見えてくると思う。

アドバイザー
60 ページとして６ページなら 10 事例、４ページなら 12 事例ぐらいか。あと何を取り上げるか。Ⅰ期とⅢ期はもういいかなと思うが、Ⅱ期についてはもう一回掘り起しが必要かもしれない。他の魅力的な事例はないか。小学校高学年や中学校の先生方におもしろそうなⅡ期の事例を提案してもらえるとありがたい。

委員
うちの中学１年生が今年、練馬区めぐりを班行動の遠足で考えている。２年生は鎌倉、３年生は修学旅行だが、１年生は上野もいいけれど練馬区はどうだろうという話になり、何かちょっと変わったのをやろうとしている。５年生、６年生ぐらいでやるのかなと思ったのだが。

委員
５年生、６年はやらない。３年生で区内めぐり、４年生で東京都、大体そんな順番である。

委員
班で行動したりすることはあるのか。

委員
ない。

事務局
中学校は班で区内をバラバラに行く。都内へ行って川越へ行って、３年生で京都、奈良等につなげていく。

アドバイザー
委員先生が考えているイメージはおもしろい。３年生では無理だから５年生、６年生あたりで。バスに乗っていくのとは違い、自分たちで計画して一緒に力を合わせていろいろなところを訪ねる。まさにキャリア教育である。

委員
それを３学年一緒にして行けないか。

委員
　なるほど、Ⅱ期の子供たちを中心に、縦割りでリーダー作ってやっていく。

事務局
　他の事例で都の安全教育プログラムに、小中一緒に地域安全マップを作るというのはあった。地域学習は社会科などがそれぞれ想定しているので、どこかにありそうな気もする。

委員
　安全性を重視するのであれば、光が丘公園とか石神井公園でオリエンテーリングのような感じで、教員がポイントを作っておいてそこに行かせることも考えられる。

部長
　それでクイズか何かに答えるとか。ふるさと文化館もできたし、それを入れて１日ぐらい行動するか。

部長
　登校班に中学１年生が一緒に入ると、まだ記憶が残っているからあまり無理はない。避難訓練などはそれでできる可能性ある。それと同じように都内回りまでいかなくても、区内であったらエリアを決めれば、要所、要所は先生方に立ってもらえばよい。
　いざ防災などの時に使えるような母集団を作っておくと、何かのときにはすごく役に立つかと思う。

アドバイザー
　現実的にはすごくいいと思うが、キャリア教育の枠に入るかどうか。

委員
　人間関係形成能力。

事務局
　防災の話でいくと、中学２年生や中学３年生は防災拠点として地域の中での役割に目覚めていく。

アドバイザー
　役割意識ですか。

部長
　働くというのは地域に貢献するというか、確かにお金をもらうのも一つの「働く」でしょうが、地域の中で汗を流しいろいろなものを運んだり、協力するのも「働く」であると思う。

アドバイザー
　自分の地域のために主体的に課題を解決する。

事務局
　安全指導で体系、系統立てていくのもおもしろいかもしれない。

アドバイザー
　防災訓練を一緒にやってもよい。当然、今度の一貫校は一緒にやると思う。もうちょっと何かおもしろいのが出てきそうだが。

委員
　前の学校で、幼・小中学校で合同避難訓練やった。幼稚園で出火したら幼稚園の子が小学校来てとか、時間帯を決めて全員中学校に避難とか。

部長
　それは結構、切実な問題かもしれない。

アドバイザー
　どこかで取り上げてもいいね。

部長
　地域社会の一員として、将来設計能力、役割把握、社会に生きる一員としての自覚を持ち責任を果たしていく、地域に貢献した人の生き方とか。

事務局
　ありがとうございました。しっかりイメージを整理していただけているので、先に進めることができるかと思う。委員先生には次回のたたき台を出していただき、次回検討することになる。まだまだやっている中で検討したくなるものがたくさん出てくると思うが、一つひとつ確認しながらやっていきたいと思う。